

# 東高

# 国際だより

平成29年3月9日  
京都府立東舞鶴高等学校  
国際教育部発行  
2017 vol.11

## 台湾・台北市立陽明高級中学来校(2/24)

台湾から陽明高級中学の高校生32人と教員3人が来校され、2年3～5組の生徒と交流をしました。開会式でお互いの学校や街についてのプレゼンを英語でした後、クラスごとに文化交流をしたり一緒に授業を受けたりしました。共通言語である英語でのコミュニケーションは、難しくも今後の英語学習に向けての良い刺激になったようです。



記念品の交換です

開会式でお互いにパフォーマンスを披露しました。



クラス別文化交流で台湾のゲームを紹介してもらい、大いに盛り上がりました。



体育の授業では、卓球とバドミントンをしました。



台湾の生徒はプレゼンについて質問をしました。



英語の授業では、台湾研修旅行で学んだことを発表しました。

### 感想

- 台湾研修旅行でいっぱい話した女の子と再会できて、また話せたことがうれしかった。さらに台湾の知識が増えて良かった。
- 英語の授業では、一緒に iPad を使ったクイズができて楽しかった。
- 普段外国の方とかわるかならないので、とても楽しかったし、もっと英語を身に着けたいと思いました。他の国を訪れたいと改めて思いました。
- 3組の人たちの発表を見て、英語で舞鶴の紹介をしたり、歌ったり演奏したり、すごいと思った。
- 団子や折り紙をしながら台湾の方と仲良くできて良かった。

再见

## お知らせ

### 第24回 AIU 米国高校生国際交流プログラム

来日した米国高校生との共同生活を通して、日米相互の文化交流を図るセミナーです。「英語のみの環境」で生活することによって、日本にいながらにして海外にいるような体験ができます。参加しませんか。

- 期間：2017年7月27日(木)～8月8日(火)
- 場所：関西セミナーハウス(京都市左京区)
- 内容：日本文化活動、ディスカッション、プレゼン、米国講師による語学と文化学習 など
- 費用：交通費、滞在費はプログラムが負担してくれます。

### 全国国際教育研究協議会主催 高校生英語弁論大会

スピーチ大会への参加者を募集しています。内容は国際理解・国際交流・国際協力・国際ボランティア活動等に関するものです。地球環境や世界平和などについて、日ごろ考えていることを発信してみませんか。

- 日程：平成29年8月8日(火)・9日(水)
- 場所：岩手県
- 春休み中に指導します!

申し込み希望者は、**3月17日(金)までに**、国際教育部(野田)のところへ!

## Namaste ～ネパールからの手紙～

青年海外協力隊員としてネパールでボランティア活動をしている英語科吉積勇人先生からのメッセージをお届けします

今月はネパールに来てから悶々と考えていることについて書いてみようと思います。

日本(先進国)に住んでいると、こんな記述を目にしませんか? 「日本や他の先進国の識字率はほぼ100% 途上国では、その半分以下で文字を読み書きできない人や、学校へ行けない人がたくさんいます。学校に行けることはとても幸せなことですね。途上国の人たちに私たち日本人は何ができるのでしょうか?」私もネパールに来る前はこのような考えをしていました。学校へ行って勉強できないことは、「かわいそう」なことなのだと。しかし、ネパールの超がつくほどの田舎で働いてみて考えが変わりました。

私の住んでいる地域の方々にはほぼ全員が農業で生計を立てています。所謂自給自足の生活です。それに私の住んでいる地域の人たちは、タマン語という言語を使っており、タマン語には文字がありません(日本は平安時代から文字がありますよね)。文字が読めなくても、書けなくても、好きな人や家族と日々生活を送る幸せがここにはあります。言い換えるならば、勉強や金稼ぎは生活の向上につながるものではなかったのです。そもそも何故ネパールの人たちは勉強しないといけなかったのでしょうか?それは、加速化するグローバル化の流れで、周辺諸国と政治的、経済的に歩調を合わせなければならなくなったからではないでしょうか?ネパールはインドと中国という大国に挟まれた国です。海外から仕事や物が国境を越えてくる度に、ネパールの人たちは畑を捨て、必要以上に自分たちの生活スタイルを先進国風に調整せざるをえなかったのではないのでしょうか?もっとひねくれた考え方をすると、先進諸国内で途上国支援(特に教育)を募ると、大きなビジネスにもなります。その印象も非常に良く、誰もがいいことをしていると思うでしょう。途上国は先進国の貿易、ビジネス、政治に翻弄されていると言っても過言ではありません。その点ブータンは独自路線を貫いた興味深い国ですよ。このグローバル化の渦の中に取り込まれてしまったネパール人達は、過去の生活に戻れなくなっています。幸か不幸か、文字が読めない、英語が理解できないことは致命的になってしまう社会を作ってしまったのです。それ故6歳から過剰な英語教育も行われています。

さあこの問題、誰が悪くて我々先進国の人間はどのように関わっていくべきなのでしょう?果たして識字率が悪いことは、かわいそうなことなのでしょうか?何故先進国政府やNGOは途上国に”支援”するのでしょうか?こんなことを悶々と考えながら日々活動しています。是非これを機会に、途上国支援とは何なのか、考えてみてください。



3月下旬～4月上旬にかけて、一時帰国されるそうです。

「国際だより」は下のQRコードからもアクセスできます。

